

第1部 部会提言・提案

はじめに - 経緯とお礼に代えて

平成13年6月岸和田市の公募の呼びかけに応えて応募した私たちは、約3年間の活動のまとめとして、ここに提言・提案をとりまとめました。振り返れば平成13年7月15日に、「市民と共に考える」まちづくり・ざいせい岸和田委員会(以下「岸和田委員会」と記す)が市立福祉総合センターで発足し、その後4つの部会、「教育と文化のまちづくり部会」「健康と福祉のまちづくり部会」「安全・快適な都市的魅力的あるまちづくり部会」「環境のまちづくり部会」に分かれ、それぞれの活動を開始しました。

当初は「岸和田委員会」に対する参加の動機、設置趣旨の理解、委員が何をすべきかなどについて、部会委員一人ひとりの間で明らかに相違がありました。そのために検討課題の設定や提言・提案の内容、その後の取り扱い、市に対する姿勢などで、調整の労力が生じて合意形成のために1年余りの時間を費やしました。それぞれの思いを抱いて参加した委員が偶然集まってまちづくりや財政問題について議論を開始し、調査研究を重ねて提言・提案をまとめる作業はそれぞれが初めて経験することでした。そのために現在に至っても「岸和田委員会」の意義や委員会・委員の権限、提言・提案後の市での取り扱い、「岸和田委員会」終了後の体制について十分な合意を得たわけではないと考えています。しかし、このような状況の中で緩やかな合意が形成され、提言・提案がまとまったことは「岸和田委員会」の性格上評価すべき点だと考えています。

では、現在まで「岸和田委員会」に参加し、部会の提言・提案を含め最終報告書をまとめ、最後の報告会開催までに至った委員はどのような意義を感じて活動を続けてきたか。日常の活動、七夕ミーティング、終了時の感想から幾つかの点を拾い出してみます。

第1は、何よりも「岸和田のまちを少しでも良くしたい」という熱意と愛着の持続力です。

第2は、従来の市民が行政に要求する姿勢を見直し、市民が自ら考え、実践することが必要な時代であるという認識に立ち、市民として何が可能かを追求する「岸和田委員会」の取り組みを完成させたいという責任感です。

第3は、多様な意見や立場の異なる市民の集まりである「岸和田委員会」の性格を理解し、かつ提言・提案に向けた合意形成の困難さをくぐりぬけた委員の成長であり、自治力の向上です。

第4は、多様な市民が集い、課題を決め、調査・研究・討議を重ね、提言・提案へと進んでいく過程で生まれてくる人間的なふれあいと楽しさ、そして視野が広がっていく知的充実感です。

第5に、活動を通じて、従来からの市民と市の関係が目に見える形で改善されたことです。「以前の市の姿勢と違って、情報をさっと出してくれる」などの声に現れています。

岸和田市民と市政にとって初めての試みが3年間継続し、提言・提案がまとまり、参加市民の人間的な成長とふれあい、そして相互理解が生まれたこと、市民と市の関係が変化したことを「岸和田委員会」の最大の成果と考えています。まちづくりや財政健全化も市民の相互的なふれあい、相互的理解に基づく基盤が豊かに形成され、その基盤の上に市民と市の協働が形成されない限り機能しないものです。その意味で新しい市民像の創造であり、自然環境を含む「市民がつくりあげていくまちの味わい」への試みといえます。

また、岸和田の自治力への問いかけでもありました。私たちの試みは市民からの情報発信の試みであり、まだまだ20万分の1の第1歩に過ぎませんが、提言・提案と「岸和田委員会」活動が今後の市民と市政のまちづくりの一助になれば幸いです。

最後に、「岸和田委員会」は平成16年4月18日の報告会で終了します。この間、調査やヒアリングに快く応じてくれた多くの方々、七夕ミーティングに参加されたの方々、助言指導いただいた研究者の方々、市の関係者の方々に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。